

料 資 料

直轄改良國道標準設計に就て (三)

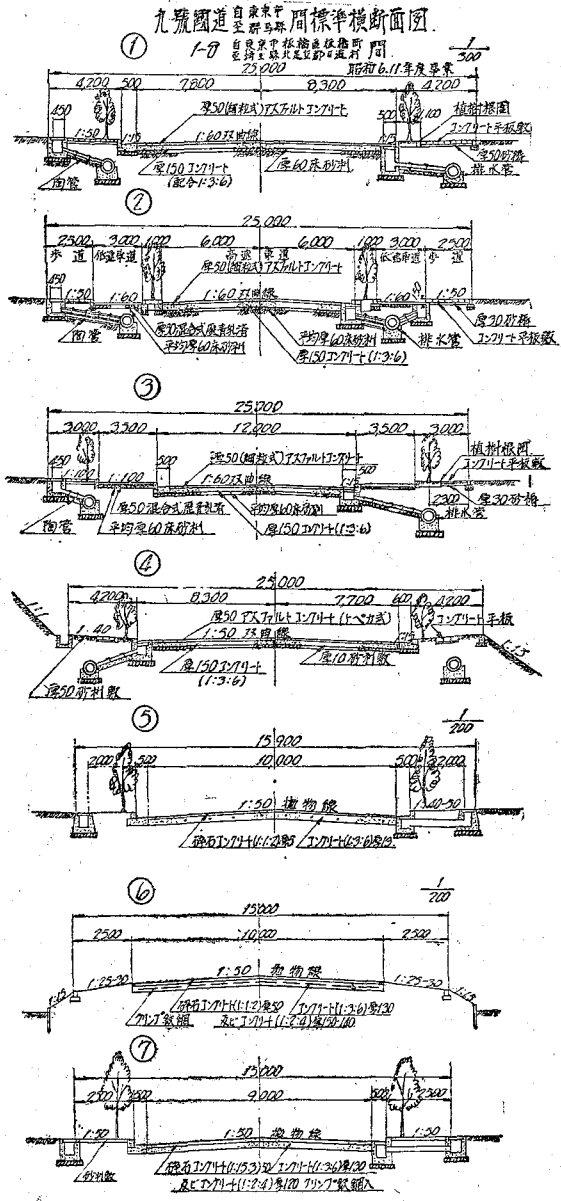
和 田 庄 藏

4. 9 號 國 道

9 號國道は、京東より浦和、大宮、熊谷を経て高崎に至り、茲に長野、秋田方面に通ずる 10 號國道を分岐し、更に前橋に至り北走して三國峠の嶮を越へ、新潟市に達する路線にして、産業交通聯絡上頗る重要なる路線なり。

1~8 自東京市板橋區板橋町
至埼玉縣北足立郡日進村 間 昭和 6~11 年度事業

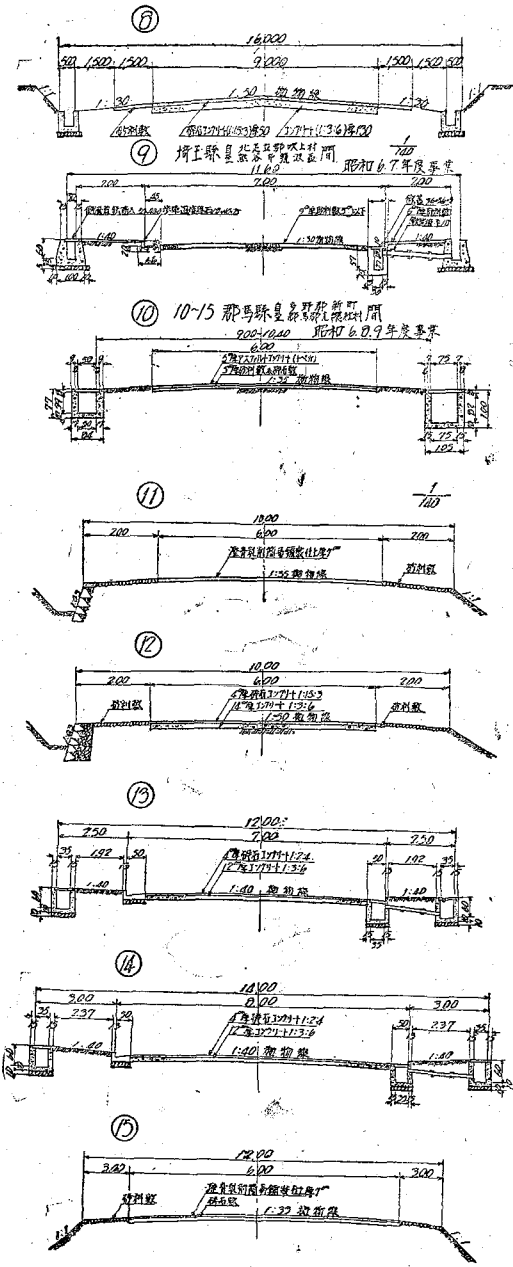
本區間の内、東京市板橋區板橋五丁目より志村清水町に至る間の現國道は、幅員僅に 7 米内外にして人家擁比せるが故に、都市計畫路線に據り現道の西方に新設し、志村清水町より志村蓮根町に至る間は大體現路線に倣ひ、幅員を擴張し屈曲を緩和すると共に線形を整正す、埼玉縣北足立郡戸田村より日進村に至る間は屈曲甚敷且つ濠町、浦和市、大宮町地内の街路は幅員狹隘にして店舗惠擔せるを以て之を選び新路線を設定す、幅員は、東京市板橋區地内は、都市計畫街路幅員



に據り之を 25 米とし、中央 16.6 米を車道に其兩側各 4.2 米を歩道とし、埼玉縣北足立郡戸田村より日進村に至る間は、總幅 15 米内車道 9~10 米歩道各 2.5~3.0 米とし街路區域は特に歩車道を高低分離をなし郊外は區別せず、鋪裝は、板橋區地内は、車道「アスファルトコンクリート」歩道「コンクリート」平板張とし戸田村~日進村間の車道は二層式又は一層式「コンクリート」歩道は、街路區域を砂利敷とし、郊外は土砂を充分鞏固めたる儘とす。

9. 埼玉県 自北足那次上村 間 昭和 6.7 年度事業
 本區間の現道は、幅員 5 米内外にして、屈曲又直敷加ふるに國有鐵道高崎線との平面交叉あり交通事故頻發する狀況なるを以て附替を行ひたり、幅員は、側路區域 11 米内車道 7 米歩道各 2 米とし、斜外有效 10 米とす、路面は鋪裝を後日に譲り凡て砂利敷とせり。

10~15 群馬縣 自多野郡新町 間 昭和 6.8.9 年度事業



資料

本區間の内、小野、岩鼻、佐野村地内の屈曲甚數箇所及び高崎市街路區域の家屋縮比せる商業地帯は之を避け附帯を行ひ、其他の區域は現道を擴張し鋪裝を施工す、幅員は高崎市内 14 米内車道 8 米歩道各 3 米、佐野村地内 12 米内車道 7 米歩道各 2.5 米に歩車道を高低分離をなし其他は總幅 8~12 米とす、鋪裝は、車道を二層式「コンクリート」及び瀝青乳劑鋪裝、歩道は主として砂利敷とす。

5. 10 號國道

10 號國道は、高崎市に於て 9 號國道より分岐し、碓氷峠の險を越へ、長野縣北佐久郡西長倉村に至り岐阜方面に通ずる 14 號國道と結び、上田、長野兩市を經て新潟縣に入り、更に山形縣を過ぎ秋田市に達するものにして、本州中央主要部を横斷し裏日本との交通聯絡及産業上樞要なる路線なり。

1~5 群馬縣碓氷郡 自白井町大字横川 壘城 本 昭和 7, 9, 10 年度事業

本區間の内、白井町大字横川地内は幅員 4 米内外の砂利道にして、人家稀比し、且つ國有鐵道信越線との平面交叉あるを以て、現道を選び新路線を設定し、白井町大字横川より坂本町大字坂本に至る間は、屈曲甚數半徑實に 20 米内外の及び勾配 1/10 内外を算する急坂路あるを以て、部分的に附帯をなすと共に、屈曲の整理、勾配の緩和及び幅員の擴張をなし、坂本町より碓氷峠に至る間は、兩側樹木急傾斜の森林帶或は斷崖にして紆餘曲折し、路線は宛ら鋸齒狀を呈すが故に是等の缺點を部分的に除去せり、幅員は、坂本町街路區域を 12 米内車道 8.5 米歩道各 1.15 米とし、他は總幅 6.4~8.5 米内 5.4 米を砂利敷、又は一部に中央 3~6 米を二層式「コンクリート」或は鋪石鋪裝をなし其兩側各 1.2 米を砂利敷とせり。

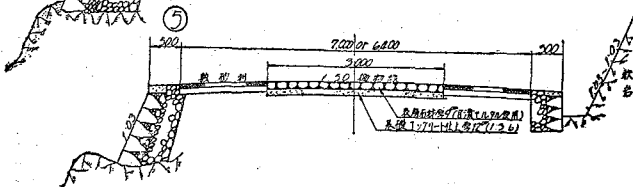
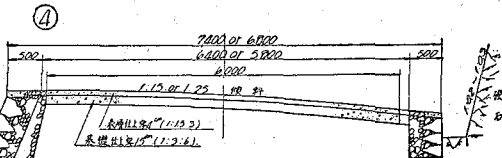
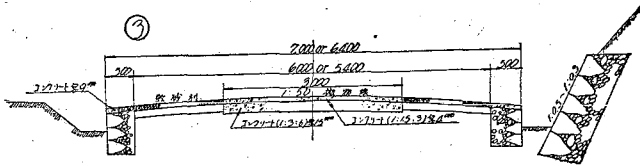
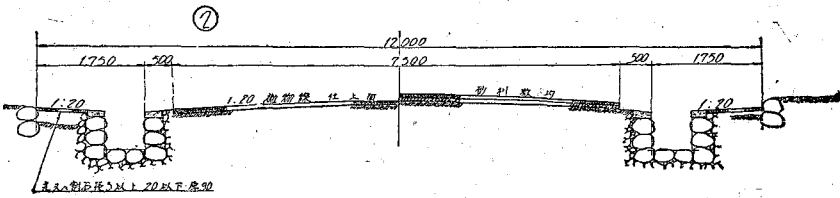
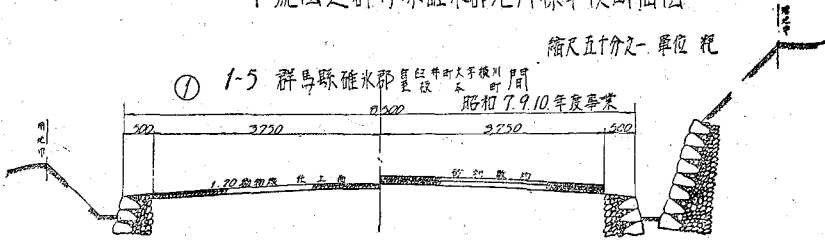
十號國道群馬縣碓氷郡地内標準横断面圖

縮尺五十分之一 單位 尺

資
料

① 1-5 群馬縣碓氷郡地内標準横断面圖

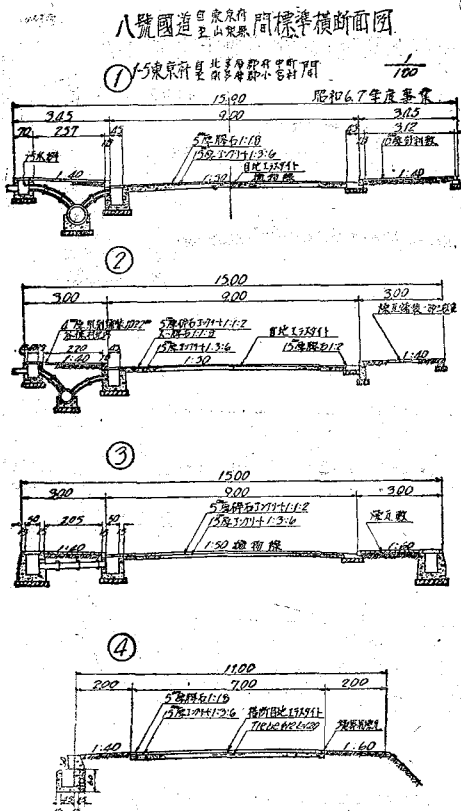
昭和 7.9.10 年度畢業



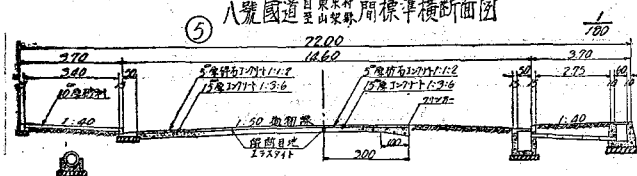
6. 8 號國道 (昭和 14 年度以降、山梨縣内は横濱土木出張所へ移管)

8 號國道は、東京市より八王子市に至り、神奈川縣の北部與彌村を過ぎ、山梨縣上野原、大月、河口の各町村を通過し、御坂峠を越へ甲府市を経て長野縣に入り、下諏訪町に於て 14 號國道と合し、鹽尻町に出で木曾川の溪谷を下り岐阜縣加納町に至り 12 號國道と合し、關ヶ原町に於て分離し、滋賀縣草津町に至り更に 2 號國道と合し、京都市に至る本洲中央部を縦斷する樞要路線なり。

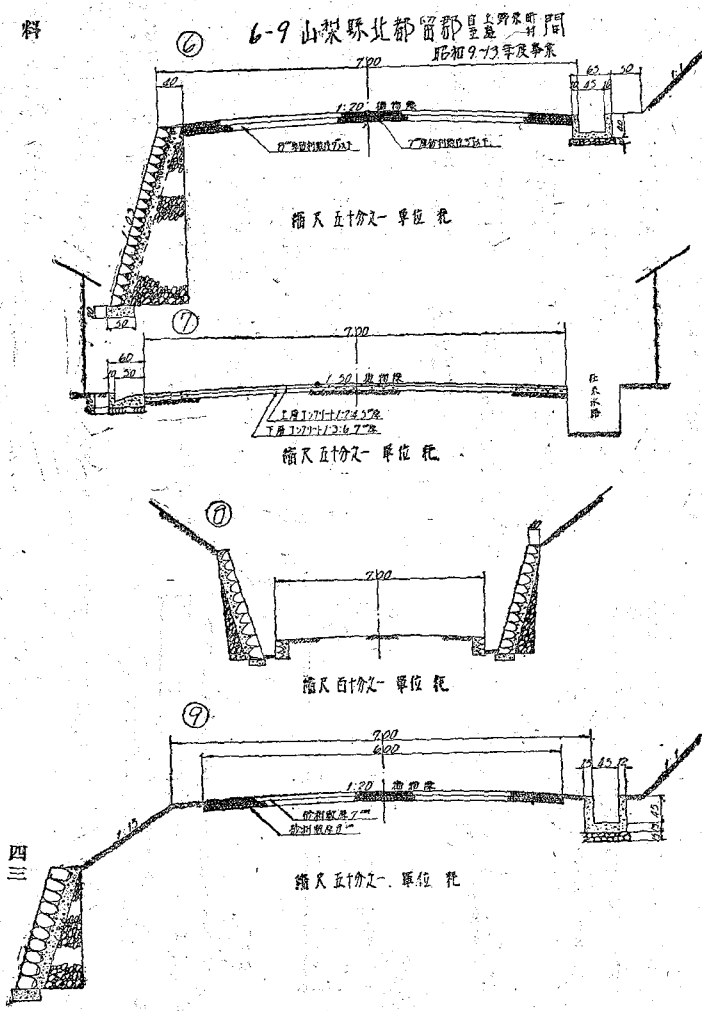
1~5 東京府 自北多摩郡府中町 間昭和 6, 7 年度事業
至南多摩郡小宮村



八號國道 自東京府 山梨縣 間標準横断面図



八號國道 京都府 山梨縣 間 標準横断面図



本區間は、日野町地内を除く外概ね、6~7米砂利道にして、軟近邊増せる自動車により路面は著しく損傷せられ、凹凸甚しく狹隘なる幅員と共に交通の圓滑を缺き其維持又困難となれるを以て、幅員を擴張すると共に鋪裝を加工す。幅員は、街路區域を22, 15, 9, 15米内車道 14, 6, 9米歩道各 3, 7, 3, 4, 5, 3, 0米とし、郊外を11米内車道 7米歩道各 2米とす。鋪裝

は、車道二層式「コンクリート」歩道「コンクリート」平板、及び煉瓦張、或は砂利敷とせり。

6~9 山梨縣北都留郡自土原町 村 昭和9~13年度事業

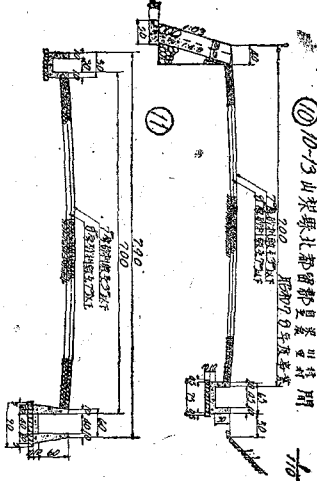
本區間の現國道は、幅員狭小なる砂利道にして、急峻並に大迂廻屈曲數多あり高速車輛の交通に對して危險極まりなき状態にあるを以て、大迂廻を除くと共に急峻部の緩和を行へしものなり、幅員は、總幅7米とし街路區域は全幅二層式「コンクリート」舗装を施工し、他は中央6米を砂利敷とす。

10~13 山梨縣北都留郡自邊川村 室賀里村 昭和7,8年度事業

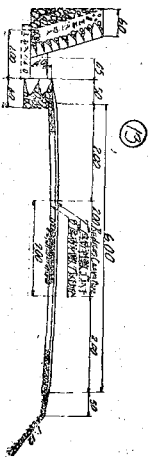
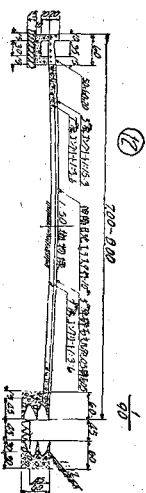
本區間は、桂川溪谷に沿へたる片阻道にして、道幅狭く曲折多く而も斷崖絶壁に沿へる箇所尠なからず、加之全線を通じて鐵道踏切數箇所を存し、交通頗る危険なる状態なれども、之を完全なる路線に改良せんとせば多額の工費を要するを以て、交通上障碍なき限り大體現道を利用せるものなり、幅員は、總幅7~8米とし歩車道を區別せず、路面は主として砂利敷とし一部に二層式「コンクリート」舗装を施工す。

14 山梨縣南都留郡自船津村 間 昭和6年度事業

本區間は、名勝指定地富士五湖の一たる河口湖に沿へる舊鎌倉街道に



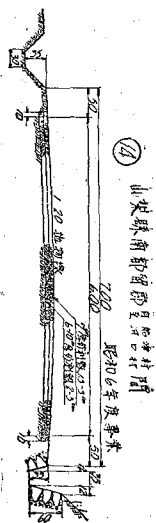
八景國道 自邊川村 室賀里村 橋脚断面図



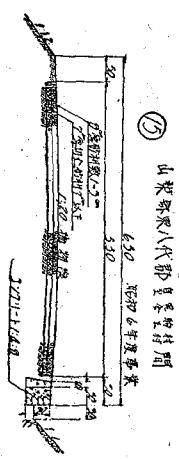
して、静岡縣御殿場町を経て沼津市及湘南方面に通ずる縣道と聯絡し、運輸交通上重要な路線なり、然るに現道は、幅員僅に3米餘にして、路面又平坦ならずして交通甚だ危険なるを以て、故に幅員を擴張すると共に屈曲の緩和を行へたり。

15 山梨縣東八代郡^{自黒駒村 間} 聖靈堂村 昭和6年度事業

本區間の現道は、幅員極めて狭小にして且人家連擔せる部分尠からざるを以て新路線を設定せり、幅員は、總幅6.5米とし中央5.5米を砂利敷とす。



⑭ 沼津市御殿場町自黒駒村 昭和6年度事業



⑮ 山梨縣東八代郡聖靈堂村 昭和6年度事業